

第321回

# 日文研フォーラム

講師◎ デイックステゲウエルンス ノルウェー国立オスロ大学 准教授 / 日文研 外国人研究員  
日本国民の戦争記憶をめぐる映画戦争

コメンテーター◎ 細川 周平 日文研教授

司会◎ 吉江 弘和 日文研助教

2018年5月8日(火) 十四時～十六時(開場十三時四十分頃)

ハートピア京都3階大会議室

入場無料・先着二八〇名まで

申込不要(十三時十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies

## The 321st Nichibunken Forum

主催: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



## 日文研フォーラム

日本国民の

戦争記憶をめぐる映画戦争

The Film War for Japan's Collective War Memory

占領期において日本のメディアは厳しく統制され、映画界も極東国際軍事裁判の判決に従わざるを得ませんでした。しかし、占領軍が撤退するや否や、日本国民の戦争記憶をめぐる戦いは燃え上がりました。左派の監督は戦争の暴力性や残酷さに注目する映画を撮り続ける一方、新東宝などの映画会社は日本兵を美化した作品などを通して、映画産業における主流派となりました。

二十一世紀に入ってから、構造における変化は見られますが、ストーリー、描写、メッセージなどにおいては占領後の戦争映画を再現している性格が強いように思います。このような戦争を主題とする占領期以降の映画群の分析を通して、その諸要素を明確にすることで、戦後の日本戦争映画の源流を探ります。

講師 **デイック ステゲウェル**ス ノルウェー国立オスロ大学 准教授 / 日文研 外国人研究員



1990年オランダ国立ライデン大学修士取得(日本学)、1994年京都大学大学博士課程修了(日本近現代史)、2007年ライデン大学人文学博士号取得。2000-2007年大阪産業大学准教授、2005-2015年京都大学非常勤講師、2007年よりオスロ大学准教授、2017年8月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。専門分野は日本近現代史・思想史・国際関係史、日本映画史、日本酒の近現代史。著書に、『新世界への調整——大正世代知識人の対外認識、1918年-1932年』(東京大学出版会、2018)、*Yoshida Kijū - Fifty Years of Avant-Garde Filmmaking in Postwar Japan*, Norwegian Film Institute, 2010、*Nationalism and Internationalism in Imperial Japan - Autonomy, Asian Brotherhood, or World Citizenship?*, RoutledgeCurzon Press, 2003などがある。

コメンテーター **細川 周平** 日文研 教授



東京芸術大学大学院にて博士号取得。2004年より日文研勤務。専門分野は近代日本音楽史、日系ブラジル文化史。主な著作に『サンバの国に演歌は流れる』(中公新書、1995)、『シネマ屋、ブラジルに行く』(新潮選書、1998)、『遠きにありてつくるもの——思い・ことば・芸能』(みすず書房、2008)、『日系ブラジル移民文学1——日本語の長い旅「評論」』(みすず書房、2012)、『日系ブラジル移民——文学2日本語の長い旅「歴史」』(みすず書房、2013)がある。

## 日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、月1回のペースで、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課  
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2  
TEL: 075-335-2078  
<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>



日文研



京都府立総合社会福祉会館 **ハートピア京都**

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「丸丸丸太町」バス停下車